

図書館より

No.72

July, 2008

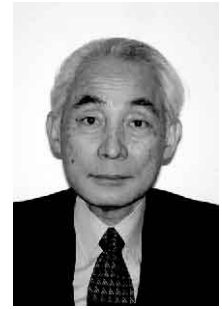


目 次

巻頭エッセイ	となりのトトロ	校長	前田 三男	1
読書のすすめ	未知への挑戦	電気電子工学科	山本 哲也	3
	生きること学ぶこと	制御情報工学科	松島 宏典	4
	読書の効用	材料工学科	池田 英幸	5
私の一冊		各学科学生6名		7
リレー連載「古典への誘い」	数値制御工作機械	研野和人・稲葉清右衛門 著		
		制御情報工学科	福田 幸一	8
平成19年度（後期）図書館利用状況				10
Information	編集後記			11

Kurume National College of Technology library
久留米工業高等専門学校図書館

「となりのトトロ」



校長 前田 三男

だいぶ昔の話になりますが、娘がオランダの音楽大学に長期留学していた頃、オランダ人の友だちを連れて、一週間ほど帰省したことがあります。その子の名前はサンドラ。ライデン大学日本学科の大学院生で、「日本映画における能・歌舞伎の影響」というテーマで書く修士論文の資料収集のために、1ヶ月ほど日本にやってきたのだそうです。大柄で、どちらかと言えばゴツイ女性が多いオランダにあっては、カリッと引き締まった美人です。

サンドラの話では、古い伝統を持つライデン大学の日本学科はヨーロッパ随一だそうです。江戸末期には西 周や、榎本武揚もこの大学に留学しています。だから当然日本語はペラペラかと思いきや、それがカラキシだめなのです。確かに日本の英文学科の学生だって、シェークスピアを読んでいるのに、英会話はダメというのがあるからなぁと思って、なんとなく納得。

そこで滞在中の1週間、我が家自慢のホームシアターで毎晩1本ずつ映画を見せてやりました。彼女のために私が考えたラインナップは、新旧とり混ぜたなるべく日本的な映画ということで、溝口健二の名作「雨月物語」、黒澤 明の痛快時代劇「椿三十郎」、和製ミュージカル・コメディ「エノケン・笠置のお染久松」、周防正行の大学学園映画「シコふんじゃった。」、それに宮崎 駿のアニメーション「となりのトトロ」というものでした。

私としてはぜひ小津安二郎を加えたかったのですが、彼女の大学の先生が小津の大ファンで、「いつも見せられて、退屈してるの」とのことで、それは敬遠しました。どの映画にも英語の字幕など付いていないので、脇で見ながらストーリーを英語で説明しなくてははいけません。こちら汗だくでした。

この中で異色なのは「お染久松」ですね。これは1949年に作られた映画で、戦前から人気・実績ともナンバーワンのコメディアン、エノケンこと榎本健一と、戦後のブギウギブームを作った実力派の笠置シズ子を組み合わせた一種のミュージカル映画です。実はこれを選んだのには訳がありました。

以前に娘から「黒澤映画を研究しているオランダの友だちが『虎の尾を踏む男達』を見たいと言っている。ビデオテープを送って」という手紙をもらったことがありました。この映画はご承知のように歌舞伎「勧進帳」を映画化したものです。太平洋戦争の最中に作られた作品で、録音が劣悪な上に、弁慶役の大河内伝次郎のセリフがじつに聞き取りにくく、日本人でも分かりにくいこの映画を、英語字幕なしで理解できるだろうか心配でした。ところが、サンドラは私が送ったテープを繰り返し見て、なんとエノケンのファンになってしまったらしい。日本に来て、どこで見つけ出したか知らないが、エノケンのプロマイドを買ってきて、嬉しそうに見せびらかしています。

そういうわけで、この歌舞伎ミュージカル「エノケン・笠置のお染久松」も気に入った様子で、ケラケラ笑って見ていました。彼女はエノケンの経歴について知りたがったので、「カレは日本を代表する天才コメディアンで、日本のブロードウェイである浅草のオペレッタ劇場の優れたプロデューサーでもあった」と言っておきました。ついでに、ブギの女王笠置シズ子のパワフルな歌唱についても、多いに持ち上げておきましたので、きっとサンドラの修士論文には、この映画が日本の「傑作ミュージカル」として紹介されているでしょう。

もっとも、その時見せた5本の映画の中で、サン



ドラが一番感動したのは「となりのトトロ」だったようです。娘の話では「どうしてこういう素晴らしい映画がオランダで公開されないのだろう。自分に子供ができたらずひ見せたい」と言って、おみやげにトトロの縫いぐるみを買って帰ったそうです。

私は宮崎 駿のアニメーション映画の中では、「となりのトトロ」が最高傑作だと思っています。宮崎駿は1941年の生まれです。私より1才年上、つまり同世代と言うわけです。「トトロ」の物語は、宮崎や私が小学生だった時代に設定されています。そのことが何よりもまず、私がこの映画に惹きつけられる所以でしょう。

最近評判になっている映画「ALWAYS三丁目の夕日」は、若い諸君も見ていることと思いますが、まったく同じ時代設定です。どちらも、日本が高度成長に突入する前夜のつつましい生活が実に丹念に、正確に描き出されています。宮崎アニメには、ヨーロッパを舞台にしたものが多く、どこことなく国籍不明な感じがして、落ち着かないことがあります。この映画は非常にしっかりと日本の風土に根ざしているところが好ましく思います。

「トトロ」は、サツキとメイという幼い姉妹が、病気で入院している母親のことを案じるという、揺れ動く子供の心理を描いたもので、宮崎アニメの中ではもっとも低年齢向きで、単純な筋書きです。しかし、幼児向きと言っても、どこにも手を抜いたと

ころがありません。何度見ても素晴らしいと思うのは、田舎への引っ越しに始まる導入部、すすけた古い家でのスワタリの出現、それからメイが初めてトトロに出会うまでの最初20分ほどのシーケンスです。もう1カ所は、雨が降り出し、帰りが遅い父親を迎えに行った姉妹の前にトトロが再び出現する場面。アニメーション映画で、しっとりした静寂の緊張感をこれほど見事に演出できた例はほかにありません。

ついでに宮崎 駿のアニメーション映画の中で、私が推薦するベスト3を選ぶとすると、第2位は「天空の城ラピュタ」です。ラピュタというのは、スウィフトの「ガリヴァー旅行記」に出てくる「空飛ぶ島」で、国籍不明の「赤毛もの」の典型ではありますが、活劇あり、スラップスティック（ドタバタ喜劇）ありの起伏に富んだストーリーが楽しめます。宮崎アニメの特徴のひとつは空を飛ぶ時の浮遊感にあります。この映画は全編が空中のできごとで、爽快な飛行感をたっぷり味わうことができるでしょう。

最近作の中では、「千と千尋の神隠し」がもっとも気に入っています。小学生のちひろという少女が主人公で、親元を離れた少女の自立がテーマという点では、「魔女の宅急便」と同類の話ですが、日本古来の土俗的な八百万（やおよろず）の神々が続々出てくるところが違います。前半の悪夢のようにどろどろとして、喧噪を極める温泉宿の雰囲気と、後半水の中に浮かぶ島を電車で脱出する場面の詩的な静謐さとの対比が印象に残ります。宮崎アニメの中で技術的にも、芸術的にももっとも高い水準に達した映画かもしれません。

最後にもう一作、初期の作品である「ルパン三世カリオストロの城」を次点としてあげておきます。TVマンガ的な人物の動きをあまり気にしなければ、ストーリー展開のおもしろさと、ギャグの切れ味ではピカールの映画です。

特集 読書のすすめ

「未知への挑戦」



電気電子工学科 山本 哲也

昨年度後期から本校に就任させていただき早半年。教育者、研究者として未熟者な私は、悪戦苦闘の毎日を過ごしています。そんな私が尊敬する人物に、西堀栄三郎先生がいます。

西堀先生は、京都大学卒業後、京大助教授を経て、東京電気（現東芝）に入社。真空管の研究に従事し、多大な研究成果を残されています。

1957年第一回南極越冬隊隊長としての西堀先生をご存じの方は多いのではないのでしょうか。南極越冬隊の実話をもとに描いた「南極物語」が有名です。その時、そり犬のタロとジロのお世話係をしていたのが、現在、九州大学名誉教授の北村泰一先生です。

南極越冬隊での西堀先生と北村先生との関係は、人材育成の基本と考えます。つまり、「やる前から駄目だと諦めるやつは、一番つまらん人間だ」とは、西堀先生の有名な言葉です。

北村先生は、徹夜でオーロラ観測が続く中、ある夜に寝込んでしまいストーブの火から火災となり、観測小屋を全焼してしまいました。実験装置を消失して失意の底にいるとき、西堀先生は、北村先生を叱るのではなく、「手ぶらでは帰さない。」「失敗したらやり直せばいい。諦めるな。」と言って北村先生に缶詰の空き缶で実験装置を作って与えたというエピソードがあります。北村先生は、この西堀先生の一言で、その後の人生が決まり、オーロラ研究における世界的権威となったのです。

西堀先生の主要著書には、「南極越冬記」、「西



タイトル：西堀流創造的生き方

石橋を叩けば渡れない

著者：西堀栄三郎

発行：日本生産性本部

堀流創造的生き方「石橋を叩けば渡れない」、「創造力」、「西堀流新製品開発」、「品質管理実施法」等があります。

今回紹介する「石橋を叩けば渡れない」は、南極越冬時の経験に基づいて西堀先生がいろいろなところで講演したものを整理した内容となっています。

まず始めに、未知の南極探検に出発するまでの体験から、新しいことに取り組む際の心構えや方法等がつつられています。

人生において一寸先は闇で、未知の世界が広がっています。そして何事においても最初というものはこわいものです。何か新しいことをするときには、まずそれを、やるかやらないのか決める必要があります。新しいことにはリスクがつきもので、起こり得るリスクを防止するために事前に調査し、それから決断しようという考え方があります。しかし、完全にリスクを防止できる調査などできるはずもなく、調査をすればするほどリスクばかりが露呈してしまいます。その結果、やめておいた方がいいという結論を出したことはありませんか。

西堀先生は、「決心してから実行案を考えるのでなければ、新しいことはできない」、「やるという前提のもとでの調査が非常に大事」、「未知をどうマネージしていくかということに価値がある」と説いています。さらには、計画を実行に移してから

の、リスクを減らす秘訣についても語っています。

次に、南極越冬中の幾多の困難を乗り越えた体験から、「創造性発揮の原動力は意欲である」、「創造性開発と環境」、「創造性開発と切迫感」、「創造性を育てる」といったタイトルで、創造的生き方について語っています。

「石橋を叩けば渡れない」は、科学者または技術者としての生き方を教えてくれる一冊です。ぜひ一度読んでみてください。

「やる前から駄目だと諦めるやつは、一番つまらん人間だ。」

「一番大事なのは、まずやる勇気なのだ。失敗したら、またやり直せばいい。」

(西堀栄三郎)

特集 読書のすすめ

「生きること学ぶこと」



制御情報工学科 松島 宏典

私は、決して普段から読書に勤しむ読書家ではありませんが、これまで様々な状況に応じて色々なジャンルの本を読んできました。最近、専ら自己啓発や仕事の効率化、コーチングに関する本が多くなってきたように感じます。

これまでに読んできた本は、私に色々なヒントを与えてくれました。ただし、そのような本も、引越しを繰り返すたびに整理され、何処其処と旅立ってしまっています。ただ、いまだに書棚に残っている本がいくつかあります。その中の一つが、今回本稿のタイトルにもなっている、広中平祐書の「生きる

こと学ぶこと」です。この本は、数学者である広中氏の人生・学問論について記されたものです。

私が最初に目を通したのは、小学校高学年頃でした。特に目的意識を持って読んだわけでもなかったのですが、おぼろげながら氏の人生論に憧れ、私も氏のようになりたいと思ったことを覚えています。学生時代、社会人時代においても、事あることに本書を読み返してきたのは、氏に対する憧れが強かったためだと思います。専門は違うものの、現在の職業に就いているのも本書の影響があるのかとも思います。

さて、本書の中で印象に残る言葉、文章をいくつか紹介したいと思います。「創造することの愉しさ、喜び—それは、おそらく自己の中に眠っていた、まったく気づかなかった才能、資質を掘り当てる喜び、自分という人間をより深く認識理解する喜びではないか」と、「創造するにはすべて素心ということを経験としていなければならない」という文章です。

数学のノーベル賞とも言われるフィールズ賞、そして文化勲章を受賞した氏であっても、なお素心（平静の心、初心）であることが大切であると思っていることに驚きます。私みたいな凡人こそが、素心であり続けなければならないと思うのですが、日々の生活の中でそのことも忘れがちとなってしまいます。

結果として、それは新たな自己を発見する機会を自分で放棄していることでもあります。どんな些細なことであっても、素心を持って接していけば、創造することにつながり、如いては新たな発見に気付くことができると思います。みなさんも、もし普段の生活、授業と何気なく過ごしている人がいれば、素心を持って行動してもらえたらと思います。

また、「若者へ！」という題目において、「私たちにこれから最も要求されるのは、自分自身の判断

力（多様な人生を生き抜く選択の知恵である）と考える力だと思う。原理とか、原則とかに盲目的に固執しては、多様性と変動に対処していけないのである。変動と多様化に対処するための教科書は存在しない。自分自身で素心になり深く考え、その結果、最も賢明な選択をすることだけが、残された唯一の方法だと私は思うのだ。」と記されています。

みなさんも就職すると、学生時代と比べて世の中がものすごいスピードで多様的に変動していることを感じると思います。このような流れに、自分の意思も無いまま身を任せてしまうと、自己を見失い、適切な判断力も低下してしまうと思います。私もそうですが、みなさんもこれからの厳しい社会へと立ち向かうためにも、普段から判断力・考える力を磨こうとする心構えを持つことが大切だと思います。

今回、本稿を書き綴りながら本書と改めて対面し、これからも「素心深考」を胸に刻んで何事もがんばっていきたいと思います。

* 広中平祐、「生きること学ぶこと」、
集英社（1984年3月25日初版）

特集 読書のすすめ

「読書の効用」



材料工学科

池田 英幸

ご存知のように、久留米高専の教育理念は、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」です。この理念を達成するようにカリキュラムが整えられています。しかしながら、さらに「広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者」となるために、本校の力

リキュラムに加えて読書することをすすめます。

今日、我々の身の回りには、テレビ、ビデオ、DVD、インターネットなどがあり、映像で様々な情報を得ることができます。しかし、映像より文字からの情報の方が人間の脳を活性化するそうです。

私の友人が「文字の無い文明は滅びる」と言って

おりましたが、栄枯盛衰はこの世の常で文字があっても滅びた文明や国はたくさんあります。しかし、文字として記録が残っていれば、解読できる場合もあり、当時について知ることができます。時を隔てて、過去の人々の生活ぶりや文化なども知ることができます。

映画が発明されてから約100年程度ですが、文字による記録や小説はその10倍の1000年以上昔のものもあります。我々は、過去の遺産として多くの記録文書、小説や論文などを受け継ぎ、その知識を享受して今日があります。

図書館は、それら人類の遺産を保管し提供する宝庫です。図書館には、百科事典、哲学や宗教、歴史、社会科学、自然科学、工学や工業、産業、芸術、語学および文学の10種類に大別されて図書が保管されています。すなわち図書館は、人類が得た知識や技術あるいはノンフィクション、フィクションなどの情報を保存しているいわば外部記憶装置のようなものです。この有用な装置を利用して種々の情報（知識）を利用しかつ吸収してください。

私は、他の国の歴史や社会についてと文学関係の書籍を読むことを勧めます。おそらく本校を卒業して就職した後、海外に出張あるいは駐在することがあると思います。その地域や国と日本との過去の関わりを知っておくことは、仕事を行う上でも重要で、片寄りのない視野を持つことにもなります。我々は、それぞれの地域の過去の歴史あるいは伝統の中で生きています。それを無視するとそこでの仕事に支障が生じることがあります。

また、日本だけでなく色々な国の作家による小説を読むことで、映画以上に楽しむことができます。良い作家の作品は、小説の中の情景や登場人物のイメージなども、生き生きと目に浮かびます。そのイメージは、読者それぞれで異なっていることでしょう。小説が映画化され、その映画を観たとき少々失望したことがありました。私の持っていたヒーローやヒロインなどのイメージや情景が映画のそれらと

は全く違っていたからです。最近、書店では映画化された小説などに映画の映像を挿絵のようにつけている本を見かけます。これですと、イメージが映画と一体になりますが、各人の自由な想像が固定化されてしまいます。映画にも良いものがありますが、最近の映画は、簡単に人を殺し、それをゲームのように楽しんでいるものや、大爆発が起きて建物が崩壊し多くの人が亡くなるような内容が多い気がします。また、テレビゲームもそのようなものが多いのではないのでしょうか？ 映画やゲームは架空の世界ですが、現実の世界で自分が死にたいからと多くの人を道すれにする事件が数日前東京秋葉原で起きました。憂さ晴らしのために、殺人を犯す人が増えたようです。人の命の大切さが実感できる映画やゲームができれば良いのですが、それでは利益が上がらないのでしょうか。小説にもいろいろあり、殺人を題材とするものもありますが、人の命の重さが実感できるような小説を読んでください。一番確実な小説は、長い時を経て今も読まれている古典的な小説でしょう。

私は、ノンフィクション全集も良く読みました。本校の図書館にもこのノンフィクション全集があります。

世界の歴史上の人物や事件、探検記などの実話を集めたもので、感動的なものがたくさんあります。また、ある国や地域の歴史的背景を知ることできます。

これから夏に向かい、「読書の秋」には早いようですが、夏休みなどを利用して読書をして下さい。本校の図書館を利用すれば、無料で図書を借りられて、読むことができます。また、それぞれの地域に県立や市立の図書館があり、そこでも手続きをすれば、図書を借りることができます。この夏は、読書をして皆さんの若く柔軟な脳をさらに活性化して下さい。

私の一冊



マーク・ボウデン 著 伏見 威蕃 訳
ブラックホークダウン
アメリカ最強特殊部隊の戦闘記録
早川書房

映画「ブラックホーク・ダウン」の原作、ノンフィクション小説である。

1993年、アフリカのソマリアでその戦闘は起こった。冷戦の終結と共に始まったソマリア内戦は泥沼化し、戦争による難民の飢餓が国際的な課題となった。国際連合（UN）は難民への食糧援助を行うため、平和維持活動（PKO）による軍事的介入を行った。そして、アイティード派に敵対する者たちへの軍事的包囲をやめさせ、飢餓状態を救おうとしたのだ。しかし、ヘリコプター2機が撃墜され、米軍特殊部隊の隊員たちは窮地に追い込まれる。結果として、米軍の死者19名、ソマリア人の死者1000名以上であった。

この小説では、映画では触れられることのなかったモガディシュの戦いにおけるソマリア人の側の言い分を調査し、記載されている点が公平性を持っている。

映画では、映像の迫力に衝撃を受けるが、この戦闘における、映画で省略されている一面を知るには、是非とも原作を読んでみることをお勧めしたい。

（機械工学科5年 石橋 直也）

上橋 菜穂子 著
精霊の守り人

偕成社

主人公は短槍使いのバルサと呼ばれる女用心棒。彼女は、百年に一度卵を産む精霊に卵を産みつけられ、〈精霊の守り人〉という運命を背負わされた新ヨゴ皇国の第二皇子チャグムを迫り来る追っ手から救い、共に逃げることとなる。この物語の特徴は、何と言っても主人公が三十の女性であることだと私は思う。脂っ気のない黒髪をひとつに束ね、化粧のひとつもしない彼女だけれど、揺るぎない強さを持っている、とてもかっこいい人だ。緻密に構成された世界と、一人一人が魅力的な登場人物たち。児童文学というカテゴリの本ではあるが、子どもから大人まで、誰が読んでも十分に楽しめる作品となっている。

（制御情報工学科4年 前田 絢佳）

サイモン・シン 著 青木薫 訳
フェルマーの最終定理

新潮社

17世紀、ひとりの数学者が謎に満ちた言葉を残した。「私はこの命題の真に驚くべき証明をもっているが、余白が狭すぎるのでここに記すことはできない」以後3世紀の間この証明を解けるものはいなかった。この本は、その世界一有名な数学の問題「フェルマーの最終定理」を完全証明した一人の男と3世紀に及び証明しようと試み苦悩した多くの数学者たちの物語です。

たった1行の数式に自分の生涯を懸けれる人たちがいっぱいいて一人一人の苦悩が伝わってきます。フェルマーの最終定理以外にもいろいろな数式の証明が紹介されていて数学に興味があるひとにオススメです。

（電気電子工学科3年 松尾 貴之）

エアハルト・ベーレンツ著 鈴木直訳
5分でたのしむ数学50話

岩波書店

僕が紹介する本は「5分でたのしむ数学50話」です。この本は、ドイツの新聞「ディ・ヴェルト」において100回にわたり掲載された人気の数学コラム「五分間数学」の中から特に面白いもの50話について紹介してあります。これに掲載されているトピックは、数学といっても教科書のような堅苦しいものではありません。たとえば、次元というもののとらえ方を題材にした「5次元のケーキ」、身近な現象を数学的にとらえた「自分の並んだ列はいつも遅い」など普通の授業などでは味わうことのできない数学の世界を体験することができます。ひとつひとつのトピックは数学的な知識はほとんど要らず簡単に読めるようになっています。数学が好きな人もそうでない人にもオススメできる一冊です。

（生物応用化学科4年 筒井亮太）

浅田 次郎 著

メトロ
地下鉄に乗って

徳間書店

戦後財閥である大手企業、小沼グループ。真次はその会社を一代で築き上げた社長の息子であった。普段から横暴であった父だが、ある時、真次の兄が父との口論の末に自殺する。真次は自分の息子が死んだにも関わらず悲しんでもいない父の姿を見て、父を軽蔑した。高校卒業後、父と絶縁した真次は、現在では小さな会社の営業マンとなっていた。その日、いつもは通らない地下鉄の階段をぬけた真次は不思議な光景を目にする。そこは、30年前の東京だった。

僕は、真次のタイムスリップを通して第二次世界大戦から戦後を強く生き抜いた人々の精神的な強さを感じた。難しい内容だが、とても深く考えさせられる作品であった。

(材料工学科4年 中村 暁)

本村 洋、弥生 著

天国からのラブレター

新潮社

「洋、一緒に生きよ」笑顔でそう言ってくれた弥生は、私の側から永遠にいなくなってしまったのです。光市母子殺害事件は、みなさんの記憶にも深く刻まれていると思います。高専時代に出会い、遠距離恋愛、学生結婚を経てようやく一緒に生活ができるようになって約10ヶ月。

少年の手により愛する妻子の命を突然奪われた夫が、妻の遺した手紙に支えられ、生きる意味を見出して行く様子を描いた作品です。何気ない日常を描いた恋人同士の手紙のやり取りだからこそ、それを奪った事件の重大さや、自分の周りにいる大切な人たちについて改めて考えさせられます。この作品は、本校の図書館にも置いてあります。

(物質工学専攻1年 橋爪里実)

リレー連載「古典への誘い」

数値制御工作機械

研野和人・稲葉清右衛門 著



制御情報工学科 福田 幸一

私が担当している授業は、機械系設計製図とコンピュータを用いて設計から製造までを効率的に行うCAD/CAM (Computer Aided Design / Computer Aided Manufacturing) などです。これらに関する技術は日進月歩であり、古典と呼ばれる書籍を選ぶことは難しいと感じています。強いて挙げれば、図学の創始者でナポレオン時代の元老院議長まで務めたモンジュの「図法幾何学」(1795年)になるのでしょうか。そこで、おもな読者である学生諸君への退職を数年後に控えた一教員からのメッセージとして、皆さんと同じ年令の時の思い出やタイト

ルの本との出会いをお話したいと思います。

小学生のころから、ゴム動力の模型飛行機など物作りが好きだった私は、中学3年生で進路を考える時に、高校にするか久留米高専(当時は工業短期大学付属工高)にするか迷いがあり、かけもち受験が可能だったため、両方受験しました。高校の入学者説明会で高校より高専の雰囲気が好きになり、機械工学科に入学しました。そして1年生からの工作実習や製図、クラブ活動のバドミントンなどに組み込み楽しい学生生活でした。

5年生になり進路を考えるようになったころには、

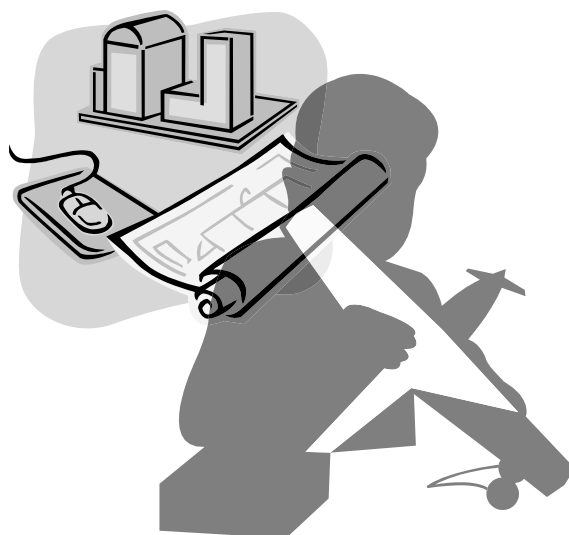
将来は旋盤やフライス盤などの工作機械の製造に携わりたいと思うようになっていました。関連する技術雑誌を購読し、小倉で開催されていた工作機械展示会に出かけて、工作機械メーカーの特徴を調べたりもしていました。この展示会は西日本総合機械展として現在も毎年6月下旬に開かれています。また、当時最新鋭の数値制御フライス盤が工作工場にありましたが、そのメーカーでもあり、展示会の時に親切に説明していただいた企業を受験し就職することができました。

1968年に入社して、製造現場、設計、輸出支援業務などを経験しましたが、入社した年に参加した講習会で出会ったのがご紹介する「数値制御工作機械」です。著者は当時工業技術院機械試験所物理制御部長の研野和人氏と富士通計算制御部長の稲葉清右衛門氏です。稲葉氏はその後、分離独立した富士通ファナック社長となられ、現在、社名変更したファナック名誉会長です。ファナックは数値制御（Numerical Control NC）装置の世界シェア50%、国内シェア70%のほか産業用ロボットでも世界的な企業です。1967年の出版当時は、NC機の黎明期で、2年ごとに開かれる国際工作機械見本市には各社から新形機械が発表されていました。この本にも当時の代表的な機械が載っています。この見本市は現在も続いていて、最先端の機械を見ることが出来ます。今年は10月30日から東京ビッグサイトで開かれます。一度ご覧になれば、その規模などに驚かれることと思います。4年生の工場見学旅行と時期が合わずに残念でなりません。

この本は、1952年にアメリカで真空管回路を使用したNC機が産声を上げたことや日本で最初に紹介された時のことから始まり、ハードウェアからソフトウェアまで基本的なことが解説されています。

1975年に私は本校機械工学科に移りましたが、当時の本校のコンピュータ設備は、富士通のFACOM230-25で入力はプログラム1行ごとに紙カード1枚をタイプし、カードリーダにかけました。メモリは24kB、512kBの磁気ドラム、ハードディスクは5MBでしたが、フラットベッド式の作図範囲1200×900mmの自動製図機がありました。これもNC機でした。1993年に制御情報工学科へ移りましたが、学科改組にともなうNC機（自動工具交換装置付マシニングセンタ）の機種選定に携わりました。この機械は文化祭の時に制御棟1階で展示実演していますので是非ご覧ください。見所は自動工具交換です。

さまざまな先端技術を持つ日本ですが、工作機械もそのひとつです。工作機械は「機械の母」と言われ、これがなければ自動車などの工業製品は何も作れません。日本は、ここ20年余り生産高は世界一で、2006年には、日本が1兆2千億円、2位のドイツが7000億円、3位中国が5000億円、以下、韓国、台湾、アメリカ、イタリア、スイスが各々2000～3000億円です。皆さんの中から工作機械の道に進まれる方が出ることを期待して、また、工作機械に限らず早めに将来の夢を決められ、それに向かって毎日を過ごされることを願い、思い出話を終わりにします。なお、この本は、本校図書館にもあります。

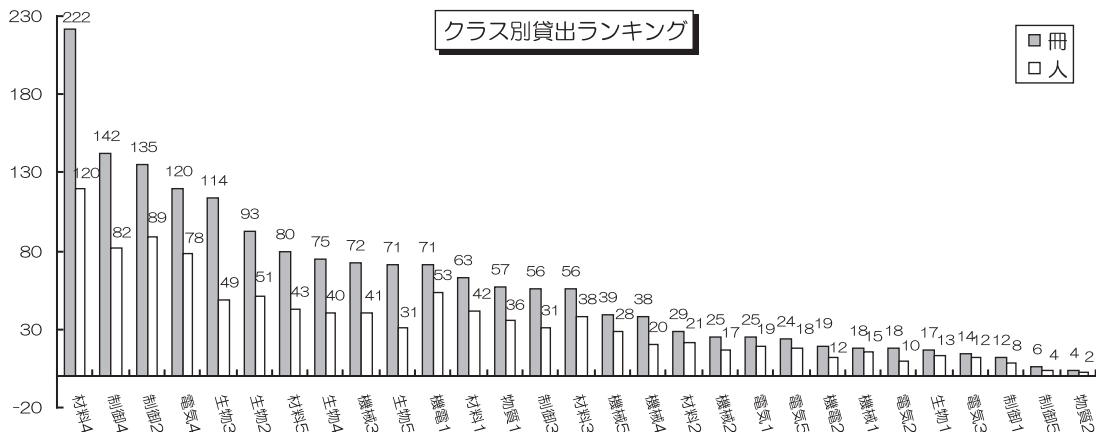
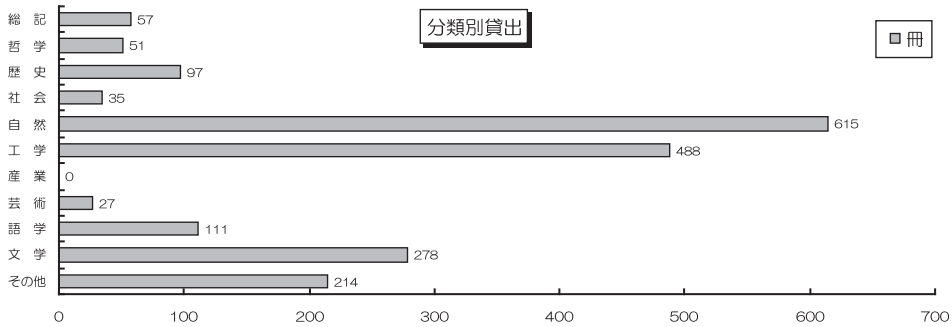
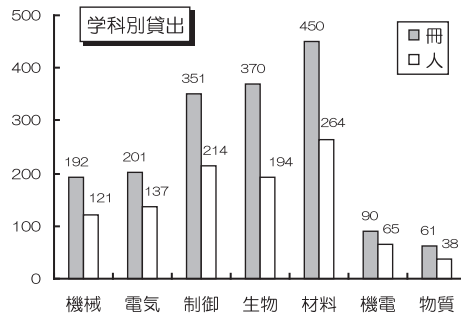
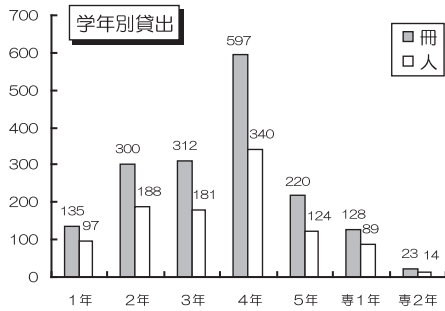


平成19年度後期図書館利用状況

◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均入館者数 (四捨五入)	開館時間
		平日		土曜日	合計			
		時間内	時間外					
10	26	2,261	423	134	2,818	24	108	※平日（時間内）9時～17時 ※平日（時間外）17時～20時 ※土曜日 17時～20時
11	24	2,268	878	127	3,273	9	136	
12	22	2,195	379	131	2,705	16	123	
1	21	2,768	953	158	3,879	19	185	
2	24	2,817	640	373	3,830	13	160	
3	22	2,089	250	115	2,454	22	112	
合計	139	14,398	3,523	1,038	18,959	103	137	

◆図書貸出状況



Information

下記のとおりお知らせいたします。開館時間の変更及び
臨時閉館にはご注意ください。



◆特別(長期)貸出について

夏季休業期間中の特別(長期)貸出を下記のとおり行います。

貸出期間：7月14日(月)から
8月22日(金)まで

返却期限：9月1日(月)

貸出冊数：5冊以内

(一般利用者及び教職員は通常貸出です。)

◆開館時間の変更及び休館日について

夏季休業期間中は、下記のとおりです。

月曜日～金曜日は、9時から17時まで開館

土、日曜、祝日及び8月13日(水)から15日(金)は休館です。



マナーを守って
楽しい図書館に

飲食物の持込禁止
携帯電話は使用禁止
騒がしい行為・会話は禁止
図書返却日は厳守

《編集後記》

校長先生による巻頭エッセイ、久々に映画の話題で楽しませていただきました。私もトトロは大好きですが、今ではたまの映画館も即夢の中へ、本を買っても積んどく(読?)だけ。目の前の仕事を片付けていくことに追われる日々……。

(ところで)

図書館だよりマニアの方は既にお気づきだと思います。巻頭エッセイって校長先生の連載だったっけ……? 実はこれ、私のミスでございます。編集委員長自らが締切日に原稿に穴を開けてしまう大失態をしでかしてしまい、その尻拭いを急遽校長先生にお願いしたという次第です。関係各位(特に下川図書係長)に大変なご迷惑をお掛けしましたことをこの場をお借りしてお詫びいたします。

(そして開き直って)

このミス、原因はもちろん私のスケジュール管理の甘さにあるのですが、根本には今の世に蔓延る「忙しさ」

と「疲れ」があるのかもしれませんが。大人も子供も、もちろん高専の学生さんたちも、忙しい、疲れた、忙しい、疲れた、……。近年次から次へと頻発している信じ難い事件・事故も、すべて、「忙しさ」と「疲れ」から生じる「考えること」、「想像すること」の欠如に起因しているのではなからうかと思ひ及び今日この頃であります。

(そんな中)

今回もたくさんの方々いろいろな分野の本の紹介をいただきました。意外にも数学関連の本の紹介が複数あり、特に個人的には、『フェルマーの最終定理』に焦りました(∵現在長期積ん読中のため)。まだまだイケテル高専健児の知識欲の「余裕」にちょびっと安堵させてもらいました。

(そしていよいよ)

夏休みが始まります。この時期くらいはせめて、「余裕」を作って何かにじっくりと取り組みたいものです。

(図書主幹 中坊 滋一)

発行日：平成20年7月14日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel:094 2-35-9306

〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号

E-mail: L-staff.SAD@ON.kurume-nct.ac.jp